

おうちの  
みんなで  
読んでね



## 令和 迎春 四年

古き自己が死んで

新しき自己に生まれかわる

小山法城…本願寺派布教使(二八八七〜一九七三)

世界で初めて酵素「レニン」の遺伝子解読に成功した分子生物学者・故村上和雄氏は、「心を入れ替えるとは、心の変化により、いままで眠っていた遺伝子が活性化することである」と言う。「ある環境に巡り合うと、それまで眠っていた遺伝子が『待ってました』と活発にはたらき出すことがあり、そういうとき人は変わることができる」「新しいものにふれることは、OFFになっていたよい遺伝子を目覚めさせる絶好の機会」なのだそうだ。

新しく生まれ変わるには、一度死なねばならない。つまり、生物学的には種々の遺伝子スイッチのOFF/ONが切り替わるということ(利己/利他など)。よき遺伝子が目覚める要因には、「笑い」「慈悲心」「祈り」「危機的遭遇」などを氏は持論として挙げている。

以前の価値観・我執という殻が破られるような体験は、想定外に訪れることもある。それは、私が深いところで真実を求めているのを見守ってきた仏の仕業なのかもしれない。

ふみはずしましたか

気がつけば、こゝも

仏の道でございまして

◆榎本さんは淡路島で生まれ、十五歳の頃に父を亡くして家業の化粧品店に精を出し、終戦後一九五〇年には東大阪市で化粧品店を開業。やがて真宗の教えに帰依し、何冊かの詩集を著しています。

今月の言葉は『念仏のうた 難度海』に掲載の「仏の道」から採られ、その直前には「今日も 如来さまは この足弱

き私の 道づれになってくださる この道 平坦ではありません」と詠まれています。榎本さんは一九七九年に化粧品店を閉めておられ、この詩集はその後に出版されており、この詩はお店を閉める前後の辺りかもしれません。そうすると、「ふみはずしましたが」という言葉は内面的なものというより、少しリアルな生活実感のようにも思えます。

浄土真宗の教えは、釈尊の教えにもとづいて悟りを目指した出家者の道ではなく、阿弥陀仏に手を合わせて浄土へと歩む在家念仏者の教えです。こまごまとした努力を傾けて、社会の中で日常を送っています。詩集『難度海』のあとがきには「行けるところまで行くつもりでしたが、店をやめました」と述懐され、無念の思いが垣間見える気もします。

私たちの人生は思い通りに進まないことが多い。しかし「気がつけば」それでもいつも私に寄り添ってくださる如来様の働きの中にあつた。それは如来様が如来様として道を歩んでおられるということなのです。私のかまごまとした日常はそのままお浄土参りの歩みであり、それはそのまま如来様の働かれる如来様の道なのです。(引用「月々の言葉」)

教えて、お坊さん 29

孤独で絶望的な状況、少しでも希望をもつにはどうしたら？

ひとまず、具体的な問題解決は難しいね（怪しい宗教は別として）。場合によってはその場から緊急避難して、動ける時を待ってもいい。経済的困窮であっても（子ども食堂など）孤立を免れる支えがあれば助けにもなる。

観経での悲劇では、父王を殺害した王子の後悔と病、母である妃の絶望を救うのは釈尊の共に苦しむ態度と、阿弥陀仏の安楽浄土。親鸞聖人は青年期の二十年間、自力修行による煩惱制御に挫折し、そこで法然聖人から称名念仏の救いに出遇った。

日常では、風呂やマッサージなどで十分休める時間を作るとか、身の回りを断捨離したり、（例えば仏壇前で）呼吸を整える生活習慣を持つとかも心の安定に作用する。

裁かず同調せず、ただ話を聞いてくれる人の存在は最も心強い。それは、自らの苦しみ悩みに向き合っ、埋没しないよう距離を置くことにもつながる。釈尊は「第一の矢は受けるが第二の矢は受けない」と、苦しみを作り出す自分の感受性、反応パターンに気づけと説いた。養老孟司氏は「人間は変わることができる、それが希望でしょ」と言う。もし「止まない雨はない（諸行無常）」「これも修行」と気づき、少しラクになったすれば、「摂取不捨（必ず救う）」と働く阿弥陀仏の大悲が共にある。

初めまして、西條奈津・釋 瑠真 (るじん) です。

◆ 1975 年生まれ。幼少期は父からの暴力、両親の離婚等経験。32 歳で離婚、娘を一人抱えシングルマザーに。神経症を発症。葬儀司会、飲食店店員、バーテンダー等必死で働きつつも死にたいと思いつけた 30 代。心の学びを独学で行い克服。

40 歳で初めて営業職になり、入社した月から顧客獲得数社内 1 位。その後転職した大手メーカー売上全国 1 位 2 回取得。2020 年、営業力 UP、社員研修などを行う会社 B-up を立ち上げるも、新型コロナウイルスが現れ世の中が激変する中、どうしたら人の心を救い、自分を救えるのかと悩むようになりました。

そんな時、信仰深かった祖母の夢を見て、仏教を通して人のお役に立ちたいという思いが芽生えたのです。元々菩提寺だった高田派のご住職様にお話を伺い、いろいろな道や仏教の世界を教えてくださいましたが、所属寺を見つけるということが難しいことも知りました。「1 日でも早く僧侶になりたい！」という熱い思いでお寺を探しまくった 10 日目、インターネットの HP で報恩寺にたどり着いたのでした。

林ご住職様が、在家の人間を僧侶に育てた経験があることや、僧侶になる方法を丁寧に載せてくださっており、「この方ならきっと私の話を聴いてくださる！」と鼻息荒く報恩寺にお電話をさせて頂きました。ご住職様は、私が遠方に住んでいることもあり、いろいろと他の方法を考えましたが、福井県が私は元々好きであったのと、親切丁寧な林ご住職様に一気に惚れ込んだこともあり、「このチャンス逃すものか！」と引き気味の林ご住職様の元に、燃える魂と共に福井県報恩寺へ押しかけ弟子としてお伺いしたのが 2020 年 5 月のことでした。

それから、月に 1 回～2 回のペースで報恩寺に通わせて頂き、まったく仏教の知識のない私を相手に、林ご住職様は根気よくご指導下さいました。会社をストップし、朝から晩まで仏教の学びに時間を使いました。勉強が進むたびに仏教が好きになり、真宗の教えに心酔したのです。仏説阿弥陀経の内容を知った時は涙が出るほど感動し、大好きなお経の一つとなりました。

そして 2020 年 10 月にはいよいよ 10 日間の得度習礼に入れる！と準備をしていたのですが、コロナの影響で定員が半分になり入れず、次の 12 月も続く 2021 年 2 月も習礼中止。このときは、教師資格を取るための講習会を先に勉強し、リモートで参加し合格できました。



そして 2021 年 6 月、習礼がリモートで開かれ、やっと参加することができました。しかし得度式は本山で受けるため先送り。以降、何度か得度式も中止となりようやく 2021 年 10 月、お得度致しました。2022 年 4 月には教師資格を取る予定です。

また、今後の活動拠点として愛知県豊田市稲武に明治の建物と 4,000 坪の山を購入。「猫仏とねこの店」を 2022 年 4 月オープン予定です。猫好き動物好きの集まる、心の癒し場を作り、猫雑貨販売、お話し会、マルシェ等企画したいと思っています。

これからも、常にお坊さんとして何ができるかを自分に問い続け、皆様のお役に立つ僧侶になりたいです。どうぞ宜しくお願い致します！

## あれこれ 雑記メモ

■秋から暮れにかけて各位から頂戴しましたお米や餅、果物や菓子類などは、「おてらおやつクラブ」という全国ネットワークに寄せられた2300世帯余りへの緊急支援（主に母子家庭へ匿名発送）に八件、及び近隣の児童養護施設におすそ分けさせていただきました。感謝申し上げます。

お母さん方からは「このお菓子で子供にプレゼントができる」「ふだんより高級なカップ麺で嬉しかった」などの声が事務局に届くという。そんなご家庭、子供たちにわずかでも役に立つことができればと思います。

■一人住まいの女性、近隣に住む息子さんらがとてもこまめに生活を気遣ってくれ、家にきた時は嫁さんが率先してお仏壇にお参り欠かさないなど、涙出てくる時があるとお話し始めた。

昔、姑の方が東京から幼いご主人を連れて疎開したが、大空襲で未亡人となったあとも、子育ても孫の面倒もしっかりと務められたらしい。

伺うと、ご本人も大勢の兄弟で仲が良く、いまだに妹さんからは敬愛され、あの両親のもとで生まれてよかったね〜と皆で話すという。

こんな話すると自慢話みたいで普段は言わない、世間では悪口ややかみが多くて、聞いてると辛くなると仰る。

確かに、悩ましい状況の家庭からみればうらやましい関係だが、こういった心洗われる現実にも触れておかないと、大事なものを見失いかねないね。

■福井駅前でジャズバーを長年営んでこられた父の従兄弟（画家・アイエムヒロシ氏の弟）Tさんが12月下旬に往生されました。式場にはジャズが流れTさん自身の絵も飾られてました。

媚を売らず客を選び、考えるより行動だという言い逃れが通用しないような、言わば規格外の人物。長年のファンの方も多数おられました。

たぶん自分には備わっていない正反対のものをお持ちの人。もう少しいろいろお話できたのではと悔やみます。

▼印刷関係のお同行の方が、なんと（頼みもしないのに）拙寺のロゴマークとイラストをご好意で作ってくださいました。少々恥ずかしいですが、HPや今回の通信から使用させていただきます。昨年一番嬉しかった出来事。感謝大です。（S）

本年も宜しく  
お願い申し上げます。  
▼在家からまた一人、拙寺所属の衆徒が誕生しました。愛知県にお住まいで、折しもコロナ禍の中、苦勞の末に僧侶としての人生が始まりました。当方も勉強させられることが多く、貴重なご縁となっています。



令和四年  
行事予定

- ・お年頭：1月2日（日）終日
- ・永代経：3月21日（祝月）昼3時
- ・七日盆：8月7日（日）終日
- ・本盆：8月15日（月）終日
- ・報恩講：9月23日（祝金）昼3時、夜7時